

- 問1 2019年に制定された「アイヌ施策推進法」では、アイヌの人々の誇りが尊重される社会の実現を目指しています。アイヌ民族が日本の先住民族であることを認め、その独自の伝統や文化を維持・振興することで実現しようとしている、多様な背景を持つ人々が共に暮らす社会のあり方を何と呼びますか。 (2026年 埼玉県公立入試 類似)
1. 持続可能な社会                      2. 多文化共生社会                      3. 中央集権社会                      4. 高度情報化社会
- 
- 問2 山形県の西ノ前遺跡から出土した、その美しい造形から「縄文の女神」として国宝に指定されている土製品についての説明として、最も適切なものはどれですか。 (2019年 山形県公立入試 類似)
1. 縄文時代に作られた土偶の一種であり、当時の人々の祈りや願いが込められている。                      2. 飛鳥時代の寺院跡から出土した仏像の原型であり、鎮護国家の思想を反映している。                      3. 弥生時代の遺跡から見つかった土偶であり、大陸から伝わった稲作の成功を祈るために使われた。                      4. 古墳時代の古墳の頂上付近から発見された埴輪であり、葬られた有力者の権威を示している。
- 
- 問3 縄文時代には、重く割れやすい土器や土偶の制作、長期間の生活痕跡である貝塚の形成といった文化がみられます。これらの文化が形成された背景となる当時の人々の生活様式について、最も適切な説明を選びなさい。 (2026年 熊本県公立入試 類似)
1. 本格的な水稲耕作を行い、大規模な環濠集落をつくって暮らしていた。                      2. 大型の野獣を狩猟するため、獲物を追って各地を移動しながら暮らしていた。                      3. 竪穴住居などを拠点とし、一定の場所に定住して暮らすようになった。                      4. 支配者の権力を示すために、巨大な古墳を造営して周辺で暮らしていた。
- 
- 問4 縄文時代の遺跡から多く発見される、当時の人々が定住生活を始めたことを示す遺構について、地面を掘りくぼめた床に柱を立て、屋根をかけた住居を何と呼ぶか答えなさい。 (2017年 茨城県公立入試 類似)
1. 書院造                      2. 寝殿造                      3. 竪穴住居                      4. 高床倉庫
- 
- 問5 縄文時代の人々は、竪穴住居に住み、狩りや漁、採集を行って生活していました。こうした生活の中で、食べた後の貝殻や動物の骨、役目を終えた石器や土器などが一定の場所に積み重なって形成された、当時の生活を知るための重要な考古学的資料となる遺跡を何と呼びますか。 (2018年 香川県公立入試 類似)
1. 高地性集落                      2. 古墳                      3. 貝塚                      4. 環濠集落
- 
- 問6 山形県の西ノ前遺跡から出土した「縄文の女神」に代表される、縄文時代に作られた土製の人形について、その名称と当時の人々が込めた願いの組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2019年 山形県公立入試 類似)
1. 土偶 — 豊かな収穫や安産を祈るため                      2. 勾玉 — 魔除けや身分を示す装飾品とするため                      3. 銅鐙 — 稲作の豊作を願う祭りの道具とするため                      4. 埴輪 — 亡くなった王の権威を示し、供養するため
- 
- 問7 縄文時代の遺跡である貝塚が、当時の社会や生活を研究する上で「考古学的資料」として極めて重要視されている理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2018年 香川県公立入試 類似)
1. 炭化した米や高床倉庫の跡が発見されることで、当時の人々が計画的に食料を生産・貯蔵していた社会構造を裏付けるから。                      2. 巨大な石材を用いた石室や、死者とともに埋められた豪華な副葬品が発見されることで、当時の強力な権力者の存在を証明できるから。                      3. 食べた後の貝殻や骨、破損した土器などが堆積しているため、当時の人々の食生活や利用していた道具の種類を具体的に知ることができるから。                      4. 集落の周囲を深い溝で囲むことで、稲作をめぐる集落間の争いがあったことや、防衛のための組織的な仕組みがあったことを示すから。
- 
- 問8 縄文時代における食生活の工夫と、それに伴う住環境の変化について述べた文として正しいものはどれですか。 (2016年 愛知県公立入試 類似)
1. 狩猟・採集による食料確保に加え、土器で煮炊きを行うことで食べられるものが増え、竪穴住居での定住が進んだ                      2. 青銅器や鉄器などの金属器を用いて効率的に食料を生産するようになり、外敵を防ぐための環濠集落が作られた                      3. 氷河期が終わり温暖になったことで大型動物が絶滅したため、移動を繰り返しながら洞窟で暮らすようになった                      4. 大陸から伝わった稲作が広まったことで食料の余剰が生まれ、それを保管するために高床倉庫が普及した
- 
- 問9 日本の東北地方、現在の青森県に位置する縄文時代を代表する遺跡について、その名称と時代の組み合わせとして正しいものを選びなさい。 (2023年 徳島県公立入試 類似)
1. 三内丸山遺跡 — 縄文時代                      2. 三内丸山遺跡 — 弥生時代                      3. 吉野ヶ里遺跡 — 弥生時代                      4. 登呂遺跡 — 弥生時代
- 
- 問10 縄文時代の人々の暮らしと文化についてまとめた資料によると、当時の人々は磨製石器などの道具とともに、土器を作り始めました。縄文時代において、土器が果たした主な役割として適切なものはどれですか。 (2018年 徳島県公立入試 類似)
1. 大規模な稲作を行うための、種もみを長期間保管するため                      2. 大陸との交易において、貨幣の代わりとして使用するため                      3. 金属を溶かして、より強力な武器を作るため                      4. 木の実などの食料を煮炊きしたり、保存したりするため
- 
- 問11 縄文時代に作られた、まじないや豊かな収穫、安産などを祈るために用いられたとされる、人や動物をかたどった土製品を何といいいますか。 (2019年 山形県公立入試 類似)
1. 石包丁                      2. 土偶                      3. 埴輪                      4. 青銅器
- 
- 問12 約1万年前に氷期が終わり、日本列島の周辺環境が変化した際の様子について説明した文として、適切なものを選択してください。 (2019年 千葉県公立入試 類似)
1. 気候が温暖になり、海面が下降したことで沿岸部に広大な平野が形成された                      2. 気候が温暖になり、海面が上昇したことで日本列島は現在の姿に近づいた                      3. 大規模な地殻変動が起こり、日本列島は大陸から切り離されて島国となった                      4. 気候が寒冷になり、海面が下降したことで日本列島はユーラシア大陸と陸続きになった
- 
- 問13 北海道にはその土地の自然環境や地形に由来する地名が多く残されています。例えば、世界自然遺産にも登録されている「知床（しれとこ）」という地名は、ある先住民族の言葉で「大地の先」を意味する「シリエトク」という言葉に由来しています。この独自の言語や文化を持ち、北海道や千島列島などに古くから住んでいる民族の名称を答えなさい。 (2024年 山形県公立入試 類似)
1. 渡来人                      2. 琉球民族                      3. アイヌ民族                      4. 蝦夷（えみし）